

テーマ ソーシャルビジネス

## 地域に根ざした組合だからこそ有効に機能した「災害支援協定」

### 千葉市下水管路維持協同組合

「災害支援協定」に従って「地域に根ざした活動を行ってきた地域の組合」が市の要望や指令を「ワンストップ」で受ける組織力を発揮した事で実現した迅速な震災復興対応。

#### 背景と目的

今回の事例の背景となる「災害支援協定」は、小泉政権が発足し公共投資事業への経済効果が疑問視され、公共事業が減少するとともに、阪神大震災から6年後であった災害時への対応が意識されるという社会環境の中、千葉市への災害時対応を迅速かつ効果的にサードビスし、地域社会に積極的に貢献する事で、組合と組合員の地位の向上を目指して締結されたものである。

#### 事業・活動の内容

協定では、市の要請に応じて、市

と連携して組合が迅速かつ効率的に応急措置等の復旧活動を行う。組合は、復旧活動を行うための、連絡体制、出動体制、資機材の供給体制を整備しなければならぬというものである。

大規模な組織であればあるほど、迅速性や効率性を要求すればするほど、コミュニケーションの管理が重要になる。今回の対応では、組合組織として、組合の理事会は市の要望をワンストップで受け止める体制を整えていただけでなく、市側に提案して早期に命令系統を一元化し、地域に根ざした活動を行ってきた事業者が地元の仕事を請け負うという分業体制を構築した。連絡手段については、携帯電話、FAX、eメール、WEB掲示板と4種類のメディアをその特徴に応じて使い分けるなどの工夫を行い、情報伝達と共有を円滑に統制する組織性を発揮した。

#### 活動の成果

震災対応効果面では、震災当日から危険個所にカラーコーンを設置し、交通規制を行うなど迅速な初期対応を実施、2日目からは本格的復旧工事に入る事ができ、震災から2カ月という短期間で、市内の下水道復旧工事を完了した（その間の出勤人数は延2,049人、使用された重機等車両は延2,050台、テレビカメラ調査延長約36km、緊急清掃延長約10km、処分土砂は約3,000m<sup>3</sup>に上った）。

プロモーション面では、深夜までの献身的な作業が住民の目に留まり、下水管路維持事業者の存在価値を強く認識して頂いた。

組合内部のモラル面では、これまでではなかった異なる事業者間の対話や協力作業が実施され、組合組織としての連帯感や一体感が醸成されており、組織的な機能の

向上や改革について、新しい一歩を踏み出せるような土壌が醸成されつつある。



▲噴砂による液状化被害



▲隆起したマンホールによる舗装の被害

#### 千葉市下水管路維持協同組合

住所：〒263-0042

千葉市稲毛区黒砂2-12-11

設立：平成9年4月

出資金：4,800千円

電話：043-241-3156

URL：twitter.com/chiba\_gesuikan

(ツイッターアカウント)

業種：下水道管路管理業

会員：16人

組合専従者：—